

健康友の会みみはら2013年9月会員数(世帯数)

会員数	33,218	(前月比) +76
郵送	8,546	(前月比) +15
手配り	24,300	(前月比) +54

協同基金到達額 2,148,861,000円(8/31現在)  
[前月比 5,724,000減]  
協同基金出資者数 11,310名(8/31現在)  
いのちを守る助け合い募金額 35,950円(8/1~31)

# とも friend 2013 No.361

発行  
健康友の会 みみはら  
本部事務局組織部  
機関紙編集委員会

〒590-0824  
堺市堺区老松町2丁58-1  
Tel.072-244-8061  
Fax.072-244-7860

1部 30円

# 中区に4支部誕生



▲土師ともの家の前で  
オープニングのひととき▶



にひらきました。オープンに先立ち、土師・東深井支部結成総会をひらき、これからの取り組み方針や6人の世話人さんを確認しました。支部分割の第1号です。

オープニングのひととき▶

### 土師ともの家 地元自治会の 協力も力に

9月1日(日)、「土師ともの家」(中区土師町1-5-18)がオープンしました。以前カラオケ喫茶店があった店舗で、場所もわかりやすく、みんなが集うには絶好の所です。オープン時間前から多くの人が集まりはじめ、延べ

70人近くの会員や地域の人たちが集まり大賑わいでした。ピークの時は、40人近くとなり、超満員でした。予定時間のお昼まで、歓談の輪が続きまわりました。来られた人たちにはコーヒーやお茶、茶菓子をサービスしたのですが、お世話係の世話人さんはてんてこ舞いでした。この場で多くの人が友の会に入会してくれました。

町自治会のご厚意で机、いすを提供していただきました。当日も自治会婦人部の方たちも来られ、よい関係ができています。後日、冷蔵庫や他の「ともの家」の備品も提供してくれました。早速、地域の「歩こう会」の人たちが「ともの家」を利用してくれます。

### 深井ともの家 みんなの期待 ふくらみます

9月16日(月・祝)は、中区で3番目の「深井ともの家」(中区深井北町738-8)をオープンしました。土師よりも少しスペースが狭いのですが、40数人が集まってくれ、立錫の余地がないほどでした。「ともの家の予定」を用意したのですが、熱心に見てもらいました。質問もたくさん出され、「絵手紙に来るよ」「ちぎり絵いいね」などの声ももらいました。これからが楽しみです。

### 西陶器支部 八田・宮園支部 もつづぎます

10月19日(土)には西陶器支部結成と、「西陶器ともの家」オープンを予定しています。残った地域で「八田・宮園支部」として再発足することになりました。これまでの「ともの家」は、みんなの意見で名前をそのままにしておくことにします。

オープニングのひととき▶

これで当面の支部分割は終了し、中区は4支部となります。あわせて中区支部協議会を作り、山歩きや写真同好会、バスツアーなど、これまでの中区支部として計画してきたことは、そのまま中区でまとまり取り進むことにしています。ニュースもひとつにまとめて発行の予定です。

中区支部 林 正二郎

# 「ともの家」つぎつぎオープン

中区支部では、9月1日に土師・東深井支部、16日に深井支部がそれぞれ結成総会を開き、たまり場「ともの家」もオープンしました。また10月19日には西陶器支部が結成総会とたまり場「ともの家」をオープンします。



▲深井支部結成総会でハーモニカ演奏  
た、支部結成を祝って、会員さんのハーモニカ特別演奏がありました。みんなが知っている歌が中心で、ハーモニカに合せて合唱。楽しい結成総会となりました。

## 聴診器

この春、7名の新卒研修医の先生が耳原総合病院にやってきました。「大阪民医連新聞」5月号の2013年新卒医師紹介のコーナーには、研修先として耳原総合病院を選んだ理由が掲載されています。◆「患者さんのための医療を忘れずにいられる病院であることが決定打」、「患者中心で、考える医療を実践できる病院と感じたため」、「平等に患者さんを診るといつ姿勢にひかれた」、「患者さん寄りの医療に共感したから」など、いずれも地域医療の拠点としての病院を支える「友の会」にとって強いメッセージでした。◆これらの他にとりわけ目を引いたのは、「NHKテレビ」『総合診療医ドクターG』の番組に出演した素晴らしい研修医が耳原総合病院に所属していたから選んだ」という答えもありました。「ドクターG」とは、経験豊かな現役医師が実際に関わった症例をもとに、研修医たちが病名を推理する異色の娯楽番組です。なお、研修医は研修中の「見習い医」ですが、医学生と違って医師免許を取得しています(念のため)◆あとひとつ、新入看護師のおひよりは「耳原総合病院で産声を上げて26年。ついに帰ってまいりました」と自己紹介。お帰りのなさい、どうぞよろしく(八田兄一)